

2022年も残りあとわずかとなりました。

楽しみにしていた冬休みですね。クリスマス、大晦日、お正月と楽しい行事が続きます。おせち料理や初詣などをきっかけに、日本の文化を学ぶいい機会です。楽しい冬休みを過ごしてください。

今年1年をふりかえるとコロナの感染の拡大にはじまり、良くないニュースが続く1年でしたが、ようやく長く続いた行動制限も緩和されてきましたので、新年は

新しい気持ちで臨みたいなと感じています。

進路では、2学期も社会見学や講演会、進路説明会などの進路行事を行ってきました。いよいよ各学部の最終学年の幼児・児童生徒のみなさんは、入試や卒業・修了のために取り組んで行く時期となりました。残り3ヶ月悔いのないように過ごして欲しいと思います。
(進路指導主事 宮本)



中学部・高等部進路講座

動画→
(お詫び：字幕対応
ができていません)



ろう者も聴者も関係なく、努力が必要だ

株式会社 若松社寺 代表取締役
渡辺健太さん



今年度の中・高進路講座では、「働くために必要な力」というテーマで若松社寺の代表取締役の渡辺健太さんにお話をいただきました。

渡辺さんは1歳の頃、はしかによる高熱で難聴になりました。難聴を理由とする社会との壁にぶつかりながらも、高校卒業後は宮大工専門の会社に就職(弟子入り)し、長年努力を重ねてみえました。その努力が実を結び、2019年には、社寺建築の会社「若松社寺」を起業されました。

今回は、そんな渡辺さんの経験とさまざまな難関を乗り越えるための工夫や心構え、努力することの大切さを教えていただきました。

また、実際に社寺を建てる時の工具や建てた楼門の写真もご紹介いただきました。



渡辺さんは自身が聾者として生きてきた中で、さまざまな差別や聞こえないことによる壁にぶつかってきました。たとえば、子ども会への参加を断られたり、高校の入学時には就職の支援ができないと条件をつけられたりしたこともあるそうです。また、両親に家の設計をしたいと話しても無理と言われてきたそうです。そのような状況でも、渡辺さんは自身の夢を貫くため、地元の工業高校の建築科に進学しました。高校時代は勉強とともにレスリングにも打ち込み、国体5位の成績を残しました。そんな実績が認められ、大学からもオファーがあったのですが、景気が落ち込んでいたので手に職をつけたいと宮大工の会社に就職されました。住み込みでの下積み生活は6畳に4人の弟子との共同生活。とても大変な生活でしたが、自分で調べてもわからないことは聴者の先輩とコミュニケーションを取って色々教えてもらっていたとのこと。

さまざまな差別を受けてきてもなお、**聴者の側だけに問題がある**と考えるのではなく、**自分で工夫して課題を解決していくことの大切さ**に気づかされました。

現在、渡辺さんは『UDトーク』や『電話リレーサービス』などを使っているそうです。さまざまな工夫をして、聴者と関わろうとする姿勢に刺激を受けた生徒も少なくありません。

また、**聴者は賢いと思いついでしまうことの誤り**も指摘されていました。聴者でもできない人

はできないのだと。そして、これからの時代は考える時代。自分で工夫しながら努力し、積み重ねることやコミュニケーションの大切さを学びました。

「**聞こえないから**」ではなく、「**どうしたら良いか**」を考え続けることが大事。

このような自身の体験からUDトークやリレーサービスなどを使い、**壁を乗り越えるための努力**をしていくこと、**聴者とのコミュニケーションを大切に**にすること、「**聾者も聴者も関係なく努力次第だ**」という力強いメッセージをいただきました。

「今の健聴の人を見ると、自分で考える力がない。本を読んで本のことを覚える、それで終わり。本を読んでその本から学んで自分で試して、**できない原因をつかんで、できるように努力する人は、物凄く成長して会社に必要な人になる**。そうすれば、会社は君に居て欲しいと思うようになり、会議にも手話通訳をつけるなど努力をするようになる。」（渡辺健太さん）

生徒の声から

「今までで一番心にのこる講演だった」
「悩みがすーっと消えた」
「楼門かっこよかった」
「成功する人には努力が必要」
「努力するのがとても大切」
「自分で工夫するのが大切」
「差別という壁は私たちにとっては難敵」
「障がいのせいにしない、自分で決めつけない」
「健聴者だけでなく自分もできるんだと感じた」
「健聴者だから聾者だからというのは関係なく、考え方や努力の量」
「耳のことをいいわけにしないで頑張ろう」
「聞こえる人より劣っていると思いついでいる人が多いという話が心に残った」
「コミュニケーションが大事」
「積極的に行事に参加してコミュニケーションを取る機会を作りたい」
「健聴の友だちともつとついつぱい話そうと思った」
「自分の気持ちを相手に伝え続けることが大切」
「資格をとったほうがよさそう」



「夢を捨てないことが大事」
「夢をもつこと、それに向かって常に考えること」
「自分も新しいことに挑戦してみようと勇気づけられた」

渡辺さん、お正月にテレビで！
2023年1月1日17:00～17:55 三重テレビ
「時をつむいで(仮題)」

電話リレーサービス



24時間・365日、双方向での利用、緊急通報機関への連絡も可能となるサービス。
(聞こえない方の発信は有料ですが、受信は無料)

幼稚部・小学部保護者対象 進路説明会・学部見学会開催

10月17日に幼稚部・小学部の保護者を対象にした、進路説明会を開催しました。
また、17日から21日で学部見学会を実施し、上の学年での学習の様子を見学いただきました。

進路説明会では、小・中・高の先生からも具体的な例や情報をもとに説明いたしました。

聾学校でこれまで取り組んで来た自立活動の先にキャリア教育があります。子どもたちの将来を見据えて、今できることは何か考える機会となりました。

短い時間でしたが、子どもたちの未来を考える貴重な機会となりました。

社会の状況は、コロナ禍をきっかけに激変しました。急速な情報化や技術革新により変化よりも、働き方や価値観が変わったことのほうが、これからの社会を歩む上で大きな影響があると感じています。

そのような中、**より挑戦する、チャレンジする力が求められています。**知的好奇心が広がっていく**幼少期にたくさんの経験を重ねていく取組みを家庭と学校が連携して進めていきたい**と思っています。

保護者アンケートより(貴重なご意見ありがとうございます)
・音声文字認識の字幕表示は、先生の言っていることが目に見えて分るので良いと思っただが、それに頼って先生方の手話の向上心が下がらないか、技術が落ちていかないか心配です。

まだ、文章力が未熟な低学年には使用しないでほしいと思います。

高1・2年生 就労体験実習に向けて

高等部1・2年生は1月23日～27日の5日間、就労体験実習に臨みます。例年通り、各事業所に生徒一人ずつ配属し、ふだんとは異なる環境の中で、朝から夕方まで事業所の人たちと共に働きます。年明けの1月13日には、午後から各自が働く事業所に、教員は原則引率せず、**生徒単独で赴いて就労体験実習の打合せを行ってくる**予定です。

これまで、自宅(または寄宿舍)から事業所までの交

通手段や経路・時刻表を調べ、1月13日の打合せに向けて、事業所の担当者にアポイントメントのFAXを送信する取組を終えました。

冬休みの年末年始は生活リズムも乱れがちです。早目にお正月気分から脱して、**規則正しい生活習慣づくりや事業所への経路の下見、インフルエンザや新型コロナウイルスの感染対策**を徹底して、就労体験実習に向けての準備をしっかりとっておきましょう。

就労体験にご協力いただく事業所

株式会社 パーソナック
アネラ 鈴鹿
株式会社 松阪鉄工所
株式会社 ホリコシ
株式会社 光機械製作所
セビアン美容室
総合健康促進センター たいき (就労支援B型事業所)

ソレント つばさ久居 (就労支援A型事業所)
株式会社 ジェイテクト 亀山工場
多気郡農業協同組合 (JA多気郡)
住友電装株式会社 津製作所
横山食品 安濃工場
多機能型事業所 ふたみ農園
株式会社 富士フロンティア

ご家庭でのキャリア教育

豊かな言葉を育むために

先日、愛知県立岡崎聾学校の鹿嶋浩校長先生のお話を伺う機会がありました。その中で、新生児の頃に、薬の副作用で失聴された現筑波技術大学の脇中起余子准教授の幼い頃のお話が紹介されました。

脇中先生は幼い頃、お母様と本屋さんに行くと、毎回必ず自分の好きな本を1冊買ってもらえたのだそう。その時、お母様も本を1冊選びます。お母様は、脇中先生に好きな本を選ばせるのと合わせて、お母様の選んだ本も必ず読むというルールをつくられたのだそう。脇中先生は自分が選んだ大好きな本とお母様の選んだ本の2冊を毎回読み重ねていかれたのだと。お母様はそうやって、脇中先生の本の世界を豊かに広げていかれたのです。

そのような読書習慣の積み重ねの中で日本語力を育んだ脇中先生は、その後、京都大学に進学。聾学校教員を経て、現職に就かれています。

一日に一度、親子の絵本の時間を

読書の習慣が豊かな言葉を育むことは、脇中先生の例を挙げるまでもなく、私たちもよく知っていることです。では、どうやって、読書の習慣を育めば良いでしょうか。

ひとつには、幼い頃から、親子で絵本を読むことをお勧めします。多忙な家事の中でも、一日の中で時間を作って、親子でゆったり絵本を読んでみましょう。子どもが毎回、同じ絵本を選んできても、「また～？」って言わずに、繰り返し読みます。

絵本の魅力は、

- ①絵があるので、言葉のニュアンスがつかめる
- ②何度も繰り返し読めるので、同じ言葉に繰り返し出会うことで、自然に言葉が入る
- ③お話の展開を楽しみながら、感情を豊かに共有できる
- ④絵本が親子の共有の宝ものになる

おやすみ前のひととき等、一日に一度、親子の絵本の時間を作ってみませんか？

(文責 西村)



最近の絵本からちょっと紹介



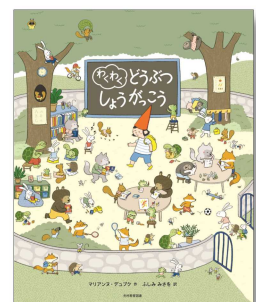
「カッパーノ」
文 森くま堂
絵 いわさき さとこ
BL出版

人気者のカッパーノ。カッパーノにとって大切なさらをカラスに取られてしまいました。さらを取り返すべく執念の旅に出ます。旅を終えた後の生まれ変わったカッパーノもすてき!



「たしますよ」
内田麟太郎 作
たごもり のりこ 絵
金の星社

「たい」にひともじたすと・何になる?ヒントは絵の中にありますよ。言葉遊びも絵も楽しい!



「わくわく どうぶつしょうがっこう」
マリアンヌ・デュブク 作
ふしみ みさを 訳
光村教育図書

森の動物たちの小学校へ見学に行きます!はじめはネズミの学校から。細やかな絵に楽しい発見がいっぱい!